

第8回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年8月25日（月）

17時30分～19時

会場：篠ノ井交流センター 多目的ホール

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 自己紹介

4 会議事項

（1）「第7回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）学びのイメージ策定スケジュール

（3）DXに係る学びについて 意見交換

ア 茨城県立 IT 未来高校視察報告

イ DXに係る学びについて

（4）学びのイメージ・育てたい生徒像・目指す学校像 事務局原案

（5）校地検討の進め方について

5 その他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関すること
- （2）校地・施設・設備等に関すること
- （3）管理運営等に関すること
- （4）教育内容等に関すること
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第8回長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長◎ 新規○	氏名	所属等	役職等	校地検討 部会
1	自治体		西澤 雅樹	長野市	副市長	
2			丸山 陽一	長野市	教育長	○
3			小川 修一	千曲市	市長	
4			小松 信美	千曲市	教育長	○
5			塚田 常昭	坂城町	教育長	○
6	産業界		市川 伸一	J A グリーン長野総合企画部企画広報課	課長	
7			福田 享士	株式会社システックス	常務取締役	
8			矢島 隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長	
9			滝沢 秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長	
10	学識経験者		森下 孟	信州大学学術研究院教育系	准教授	
11		◎	藤本 光世	元県立高等学校長	座長	○
12	地域		坪井 俊文	長野地域振興局	局長	○
13			海野 忠一	長野市（篠ノ井地区）		○
14			香山 篤美	長野市（松代地区）		○
15			赤地 憲一	千曲市		○
16	同窓会		越 正至	更級農業高校同窓会	会長	○
17			細川 隆男	松代高校同窓会	会長	○
18			赤塩 曜子	屋代南高校同窓会	会長	○
19	P T A		山田 哲章	更級農業高校 P T A	会長	
20		○	池田 悌智	松代高校 P T A	会長	
21			青木 健司	屋代南高校 P T A	会長	
22		○	峯村 篤	長野市 P T A 連合会	副会長	
23		○	宮原 純平	更埴 P T A 連合会	代表	
24	小中学校等 関係者		宮尾 昭広	長野上水内校長会 広徳中学校	校長	
25			宮坂 博喜	更埴校長会 屋代小学校	校長	
26			倉島さつき	稲荷山養護学校	校長	
27	再編対象校		櫻井 大河	更級農業高校	農業クラブ会長	
28			武藤 穰	更級農業高校	校長	○
29			徳武 晃	更級農業高校	教諭	
30			岡澤 愛実	松代高校	生徒会長	
31			阿部 栄智	松代高校	校長	○
32			中澤 涼子	松代高校	教諭	
33			渋沢 葉奈	屋代南高校	ライフデザイン科代表	
34			竹内 宏枝	屋代南高校	校長	○
35			星野 裕之	屋代南高校	教諭	

【事務局】

学校名	氏名		
更 級 農 業 高 校	丸山 暢之（教頭）	徳武 晃	北澤 晃
松 代 高 校	山口 雅子（教頭）	中澤 涼子	坂本 成久
屋 代 南 高 校	櫻田 智也（教頭）	星野 裕之	土屋友紀子
県 教 育 委 員 会	高校教育課 高校再編推進室		
	原 多恵子	主幹指導主事	
	原 周一郎	主任指導主事	
	宮嶋 直美	主任指導主事	
	米澤 和真	主事	
	学びの改革支援課 高校教育指導係		
	○ 肥田 尚音	指導主事	

第7回 長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和7年5月12日（月）17時00分～18時30分																														
場 所	千曲市役所 301 会議室																														
出 席 （敬称略 ◎座長）	西澤 雅樹	丸山 陽一	小川 修一	小松 信美	塚田 常昭	市川 伸一	矢島 隆生	滝沢 秀治	森下 孟	◎藤本 光世	坪井 俊文	海野 忠一	赤地 憲一	越 正至	細川 隆男	赤塩 曜子	山田 哲章	宮澤 洋介	青木 健司	吉澤多恵子	梶浦麻依子	宮尾 昭広	宮坂 博貴	倉島さつき	櫻井 大河	武藤 穰	徳武 晃	岡澤 愛実	阿部 栄智	中澤 涼子	(以上 33 名)
	渋沢 葉奈	竹内 宏枝	星野 裕之																												
	福田 享士	香山 篤美	(以上 2 名)			傍聴者	17 名（オンライン参加 3 名） 報道関係 6 社																								
事務局	更 級 農 業 高 校		3 名	丸山教頭		徳武教諭		北澤教諭																							
	松 代 高 校		2 名	中澤教諭		坂本教諭																									
	屋 代 南 高 校		3 名	櫻田教頭		星野教諭		土屋教諭																							
	高校再編推進室		6 名	百瀬参事		佐野室長		原（多）主幹指導主事																							
				宮嶋主任指導主事		原（周）主任指導主事		米澤主事																							
	学びの改革支援課		1 名	井上指導主事																											
当日資料	第 7 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会 資料																														

会議事項

- (1) 第6回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 学びのイメージの検討
 - ア 学びのイメージ策定のスケジュール
 - イ 新校の生徒像・学校像
 - ウ DXに係る学科・学び
- (3) 校地検討の進め方について

主な内容(意見・質問等)(⇒回答)

○報告事項

＜高校再編推進室 佐野浩一郎 室長＞

4月7日に「豊かな学びを育む会」より「千曲市内の県立高校2校の維持存続についての要望」という内容で署名簿を武田教育長へ提出いただいた。今回の署名簿の提出については、再編整備計画【三次】での長野千曲総合技術新校への計画について反対するものではなく、再編統合に向けた計画を変更することはないことを確認させていただく。

＜千曲市 小川 修一 市長＞

人口 60,000 人弱の千曲市に県立高校2校の配置をお願いしたいという趣旨であり、高校再編そのものに反対するものではない。学びや校地について懇話会で議論を重ねていただき、決定してもらいたい。

○会議事項

(1) 第6回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ【意見及び質問なし】

(2) 学びのイメージの検討

ア 学びのイメージ策定スケジュール

- ・これまでの意見交換を踏まえて、事務局で生徒像や学校像の原案を作成した。本日の懇話会で頂いた意見を基に事務局で再度検討し、第8回懇話会にて生徒像、学校像を決定したい。
- ・DXに係る学科・学びについて説明し、第8回懇話会にて先進校の視察報告と意見交換の時間を取らせていただく。
- ・策定スケジュールについては、その都度、確認をしながら進めていく。

【意見】

- ・現実論としての意見交換をするためのスケジュールが示された。県教育委員会として、議論を前に進めるための意見交換に必要な、多くの情報や資料提供をお願いしたい。
⇒ 今後も、たたき台となる案や新たな情報を提供していく。事務局で作成した案を基に、活発な意見交換をお願いしたい。

イ 新校の生徒像・学校像

- ・第5回、6回のグループワークより、AIを活用し「地域貢献、主体性、課題解決力、コミュニケーション能力」のキーワードを絞り込み、学びのイメージ、育てたい生徒像、目指す学校像について事務局案を作成した。
- ・学びのイメージは、中学生に向けて抽象的な表現を具体的にして、「総合技術高校」がわかりやすいものを目指した。

- ・育てたい生徒像、目指す学校像については「主体性・課題解決力等」「コミュニケーション能力・協働する力等」「地域貢献・郷土愛・グローバル等」の観点から案を作成した。

【意見】

- ・総合技術高校は各科の垣根を超えることが重要。企業においても各部署の枠を超えた連携をしていくことを考えているが、実際には連携して進めていくのは難しく、枠を超えられないことが多い。
- ・各科の間にある「×（掛ける）」の意味を大事にして、3科連携による化学反応を起こしてもらいたい。これまでの学びのように教室内だけで起こるものではなく、オープンスペースのような学びの環境作り、生徒を主語とした学習環境の整備をお願いしたい。
- ・一般の方が理解しやすいように「×（掛ける）」の表現をわかりやすくしてもらいたい。
- ・農業科、商業科、家庭科に加えて工業科を加えることにより魅力的な総合技術高校になると考える。今回の案では工業科については書かれていないが、検討の余地はあるのか。
⇒ 懇話会で設置学科についても話し合っていたことになる。地域のニーズや必要性など懇話会で意見交換を行い、議論を深めていただきたい。
- ・どのような学科ができるのか示してもらいたい。農業科、商業科、家庭科でどのような学びができるのか県教育委員会で絵を描いてもらいたい。
- ・農業科で作った農作物を家庭科で商品化して、商業科が地域に販売し、長野千曲総合技術新校の魅力を地域に発信できたらよいのではないか。
- ・良い商品を作っても知られていなければ売れない。地域には学校を応援したい気持ちがあるので、リアルな体験を積んでほしい。地域に開かれた学校にってもらいたい。
- ・今までにない学校になるように感じている。今後、学び方が具体的にになっていくのが楽しみである。

ウ DXに係る学科・学び

- ・「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針【三次】」において、長野千曲総合技術新校では、「デジタル系新学科を結節点として、農業・商業・家庭科の学びを融合させる」という学校像の姿が例として挙げられている。
- ・第5回、6回懇話会でのグループワークで出された意見から「デジタル、DX、IT、AI、先端技術」というキーワードでフィルタにかけた意見を資料として提示。
- ・DXという言葉をものどのようにとらえていくのかによって、「DXに係る学科・学び」として、どのような学びが必要になるのか、その解釈が異なる。
- ・東京都立新宿山吹高校情報科を例として、情報科で実際されている科目について説明。
- ・次回の懇話会にて昨年度、茨城県立IT未来高校視察の報告を行い、意見交換を行う。

【質問】

- ・新宿山吹高校には情報科以外にどのような科が設置されているのか。
⇒ 普通科が併設されている。

【意見】

- ・DXに関する学びをどの程度取り入れるのか。農業科、商業科、家庭科の学びにDXの学びを取り入れるのか、新たな学科を設置するのか、DXに関する新たな学校を作るのかといった様々な意見が出てくることが考えられる。
- ・家庭科のファッションについては、農業科、商業科との親和性はどうか。ファッションの学びは情報科の情報デザイン科目等と親和性があると考えられる。

(3) 校地検討の進め方について

- ・校地検討部会設置要綱について県教育委員会より提案【提案については反対意見なし】

【質問】

- ・「校地検討会議の開催は懇話会と同一日を基本とする」とあるが、議論を重ねるために月に1～2回の校地検討会議の開催を検討し、進めてはどうか。
⇒ 第1回までは説明通り進めるが、必要に応じて校地検討会議を行い、学びのイメージ、再編実施基本計画の検討状況を見ながら、合意形成を図っていく。
- ・どのくらいの人数構成になるのか。これまでの実績を踏まえて今後のことを教えていただきたい。
⇒ これまでの再編校の様子から構成員は8～10名を想定している。校地検討を行うにあたり、新校を作ることができる県有地の有無を検討し、それがない場合には更級農業高校か屋代南高校のいずれかの校地となる。まずは校地選定のための観点を明確にし、議論を行った内容については懇話会に報告する。ただし、校地検討会議は非公開で行われる。校地の最終決定は県教育委員会が行う。
- ・同一日だが、同一時間帯ではないということでしょうか。
⇒ 同一時間帯ではない。
- ・新校の学びがどのようなものか、もっと固まってこなければ校地は決まらないのではないかと。
⇒ 校地検討部会は秋頃に立ち上げたい。学びのイメージが決まってこなければ、学校像が見えてこない。ご指摘の通り、学びのイメージは大変重要であり、学びのイメージを作ったうえで校地検討部会を進めていく。

その他

【次回】第8回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

- ・日時：令和7年7月または8月（予定）
- ・会場：未定

学びのイメージ 策定スケジュール

新しい学校の中身

第7回：情報教育

第8回：情報教育

第9回：学科の魅力づくり

学びの融合 など

共通理解

第1回：懇話会の趣旨説明

第2回：総合技術高校

3校の学校・学び

第3回：全国の先行事例

第4回：これまでの懇話会

新しい学校の形

第10回～第12回：

○募集開始（開校）年度

○活用する校地・校舎

○設置課程・学科及び開校時に
想定する募集学級数

学びのイメージ
完成

目指す学校像 育てたい生徒像

第5回：学校(学科)間連携

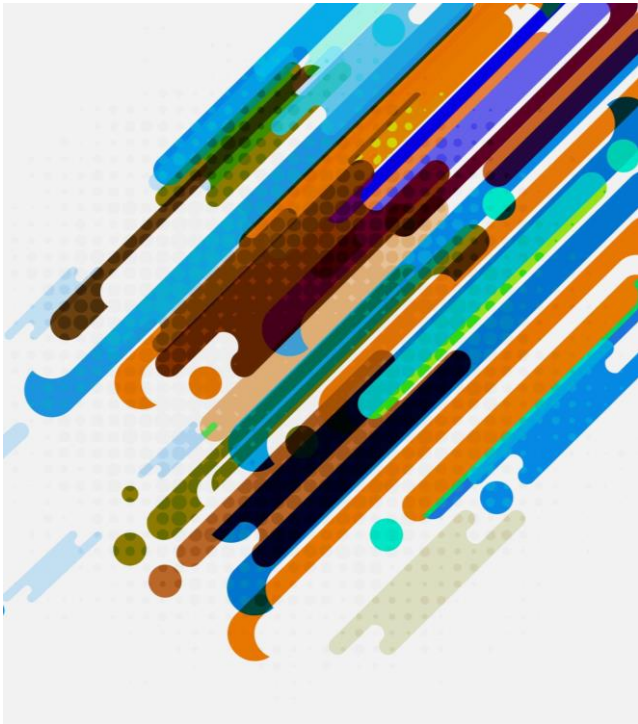
生徒像・学校像・ワクワクする学校

第6回：生徒像・学校像とその手立て

第7回：生徒像・学校像（事務局原々案）

第8回：生徒像・学校像（事務局原案）

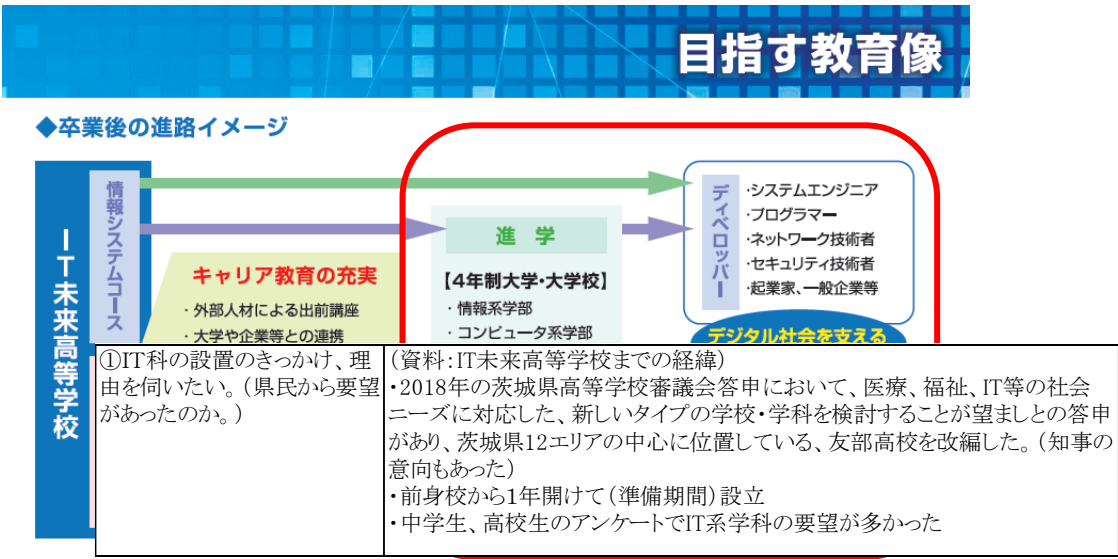




茨城県IT未来高等学校 学校視察報告

松代高等学校長 阿部栄智

0



◆教育目標

豊かな人間性と起業家精神を兼ね備えた、
次世代を担う I T 人財を育成する。

◆目指す学校像

1. 情報活用の能力や社会の諸問題を分析・解決できる
能力を培うことをとおして、デジタル社会を支える
I T 人財を育成する学校

◆日課(予定) 令和8年度

時間帯	時 限	F組	M組
8:35 ~ 8:45	SHR	○	
8:50 ~ 9:40	1時限	○	
9:50 ~10:40	2時限	○	
10:50 ~11:40	3時限	○	○
11:50 ~12:40	4時限	○	○
12:40 ~12:50	清 掃	○	○

②IT科が目指す方向性は何ですか。(教育課程で重きを置いているものは何ですか。)	・豊かな人間性と起業精神を兼ね備えた、次世代を担うIT財を育成。(教育目標) ・学習指導要領でのすべての情報科目を設置し、システム系、デザイン系のコース制とした。 ・総合型選抜での進学を目指し、ITセミナーや課題研究での探究学習に重きを置いている。 ・茨城県の中心地に位置し、全県から生徒が集めることから、生徒の状況に対応するため定時制を設置した。	○ ○ ○ ○ ○
--	---	-----------------------

手次以降に、
す。

2025/8/25

2

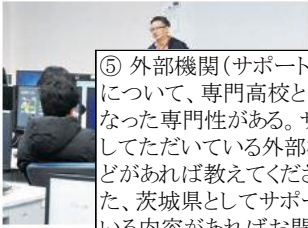
備品等 生徒の教育活動をサポート	
 Meta Quest 2 6台	 ペンタブレット 3台
 ラズベリーパイ	
 アクションカメラ	⑫施設設備の設置状況を教えてください。(IT科ならではのものがあれば教えてください。)
 モーションキャプチャー	⑬更なる情報教育を進めるうえで、施設・設備面で必要と思われるものはありますか。
	・PC室:6室・5タイプの実習室に、生徒が作りたいものが作れるようなスペックのPCを設置している。その代わり、アプリ・ソフトはフリーのものを多用している。 ・3Dプリンタ、アップルPC、VR開発環境、ドローン組み立て、Ciscoセキュリティ実習など情報分野ならではの施設設備が用意されている。 ・生徒個人PC(4.5万円)は普通科目で使用している。 ・モーションキャプチャーやVチューバでのスタジオ。 ・電子工作のための実習室、レーザー加工機、3Dプリンタ ・PC組立、ネットワーク等の設定実習用のPC ・Web会議システム

2025/8/25

3

外部人材の活用 キャリア教育を推進します

- ・ 企業や大学の先生方による普段の仕事や先端技術の内容についての講義
- ・ 外部講師による資格取得支援講座やものづくりマイスターによる実技指導

 ⑤ 外部機関(サポート企業)について、専門高校とは異なった専門性がある。サポートしていただいている外部機関などがあれば教えてください。また、茨城県としてサポートしている内容があればお聞きたい。	  ・コンテストに多く出場しており、その中でつながりを持っている状況である。 ・コンテスト:茨城ドリームパス(県教委主催:最終選考通過者に10万円上限の助成)、中山隼雄科学技術文化財団ゲームアプリ開発、シスコンシステムズのセキュリティコンテスト、技能検定等 ・連携:P-TECHでの県立産業技術短期大学校(IT短大)との連携教育プログラム ・県産業政策課の中にeスポーツ振興のための部署があり、国体ではeスポーツをはじめ開催した。 ・たまたまであるが、笠間市を中心としたコンソーシアム的な枠が出来上がってきている。
---	---

2025/8/25

4

I Tセミナー 菊栽培のための自動灌水装置の開発

- ・ 10月下旬の「笠間の菊まつり」に向けて、7月～10月に菊を育てて出品

・ 土曜日 4月  笠間市 9月 	③「ITセミナー」授業について具体的な内容、どのような外部講師の方々か、生徒の様子など教えてください。 ④「情報実習」について学習成果発表の内容と、教員がどのようなかわり方をしているか教えてください。 (資料:ITセミナー等の外部講師について) ・キャリア教育と探究学習を柱としたカリキュラムとなっている。 ・総合型選抜での受験を考え、ITセミナーを経て課題研究等での活動を重視した。 ・1年次ではITセミナーで「自動灌水装置」の製作やデータ分析を題材として探究活動を行い、それをもとにして地域と連携した活動行っている。 ・2～3年次では、アプリの知識・技能を深めるに実習を行い、課題研究につなげていけるようにしている。 ・アプリ:paizaラーニング(動画学習サービス)、スクーミー(オンライン学習サービス)、ブレンダー(3Dモデル作成)、キャンバ(デザイン作成)、ビジュアルスタジオ、フォトショップ 等 ・アドビクラウドで実習室PC、自宅や個人のPCでの学習を可能にしている。個人ライセンスの費用は県負担。 ・言語:主にPython、Java その他の言語は、生徒が必要に応じてeラーニングで学習 ・自主的な学びを尊重している(個々の対応も可能)
---	--

2025/8/25

5



教育DXを踏まえた新校の教育観

※ 高校生の声

【提案】

教育環境設計と

教育課程開発の分離

⑦技術と関わる教育的知識

Technological Pedagogical Content Knowledge

学校教員に身につけて欲しい力量

⑤技術と関わる教育的知識

Technological Pedagogical Knowledge

③技術に関する知識

Technological Knowledge

⑥技術と関わる内容知識

Technological Content Knowledge

未来志向型ICT活用教育環境

高等教育などで学ぶことを期待

ICT×専科による応用的専門性

9

先端技術を取り入れた
次世代型の教育方法などの導入を期待

専科と情報科における基礎知識

①教育（とりわけ子ども理

解・教育方法・評価等に関
する知識）に関する知識

Pedagogical Knowledge

②内容（教科内容）に関する知識

Content Knowledge

文脈

Context

④教育的知識（とりわけ教科教育法と関わる知識）

Pedagogical Content Knowledge

小柳（2016）による

Koehler and Mishra（2008）の翻訳

○学びのイメージ・育てたい生徒像・目指す学校像 【事務局原案】

◎学びのイメージ

- ・ 農業×商業×家庭科 深める・つながる・ひろがる学びで、未来をデザイン！
- ・ 作る・伝える・くらすを学ぶ！農業×商業×家庭科
- ・ 農業×商業×家庭科 “つくる力”が“生きる力”になる学校
- ・ 農業×商業×家庭科の学びを通して、伝統と創造が融合する総合技術高校
- ・ 農業×商業×家庭科の学びを通して、未来を拓く総合技術高校

◎育てたい生徒像

○主体性・課題解決力等

- ・ 柔軟な発想で新しい価値を創造し、挑戦を通じて成長し続ける自主自立した生徒。
- ・ 自ら考え、柔軟な発想で新たな価値を生み出し、挑戦をいとわず、より高い目標に向かって学び続ける生徒。

○コミュニケーション能力・協働する力等

- ・ 自他を尊び、多様な価値観を受け入れ、個人や社会のウェルビーイングを追求する生徒

○地域貢献・郷土愛・グローバル等

- ・ 地域と産業に愛着と誇りをもち、グローバルな視点をもってよりよい社会を築こうとする生徒

◎目指す学校像

○主体性・課題解決力等

- ・ 基礎学力と専門性を土台に自ら問いを立てて追究する学校。
- ・ 自分の興味や問いを大切にしながら、農業・商業・家庭科の専門を活かして探究していける学校。

○コミュニケーション能力・協働する力等

- ・ 開かれた柔軟なカリキュラムを編成し、学科、学年の枠を越え、さらに社会や企業と協働できる学校。
- ・ 協働した学びを通して、挑戦と失敗を肯定する文化を根付かせ、創造性と柔軟性を育くむ学校。

○地域貢献・郷土愛・グローバル等

- ・ 地域の伝統文化や産業に触れ、自ら貢献意識や郷土愛を育む学校
- ・ 社会や世界に目を向け、地域の活性化につながる「リアルな経験」を重視する学校